

検 定 意 見 書

受理番号 104-7		学校 高等学校		教科 工業	種目 原動機	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	表見返 1	上段左	身のまわりにある原動機 〈上段右〉 太陽光発電 〈表見返2上段左〉 水素ステーション	生徒にとって理解し難い表現である。 (12ページ側注3「自然界に存在するさまざまなエネルギーを、機械を動かし得る力学的エネルギーに変換する装置を総称して原動機といい、風車、水車、蒸気機関、蒸気タービンおよび内燃機関などがある	3-(3)	
				。」に照らして、太陽光発電、水素ステーションと原動機との関係について理解し難い。)		
2	7	下段左	1 エネルギーの利用の歴史 〈3ページ左段4行〉 1 エネルギー利用の歴史 〈8ページ1行〉 1 エネルギー利用の歴史	表記が不統一である。	3-(4)	
3	14	表1- 1	〈バイオマスエネルギー〉 都市廃棄物	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (すべての都市廃棄物がバイオマスエネルギーであると誤解する。)	3-(3)	
4	15	側注2	バイオ(生物)、マス(量)のことで、生物などから生まれた資源を燃料として得られるエネルギーのこと。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (化石燃料から得られるエネルギーもバイオマスエネルギーであると誤解する。)	3-(3)	
5	17	側注2	② 〈8行〉 …(SPM)② 〈側注3〉 ③	誤記である。 (側注1がない。)	3-(2)	
			〈表1-2〉 1時間値③ 〈側注4〉 ④ 〈表1-2〉			
			0.04ppm④			
6	18	側注4	④p.177参照。	生徒にとって理解し難い表現、側注である。 (18ページ全体で側注4に該当する箇所が見当たらず理解し難い。)	3-(3)	
7	23	10	業務部門	生徒にとって理解し難い表現である。 (24ページ図1-20(a)の「業務他部門」との違いについて理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-7		学校 高等学校		教科 工業		種目 原動機		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
8	28	13	民生部門でのエネルギー消費は増加傾向にある。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「民生部門」とは何か, 理解し難い。)	3-(3)				
9	35	10	計算法	誤記である。	3-(2)				
10	36	1	図2-7(b) <19行> 図2-7(b)	誤記である。	3-(2)				
11	39	側注3	cubic centimeter とつづり,	不正確である。 (改行の仕方)	3-(1)				
12	50	6	$e_l = e_f + e_s = gH_f + gH_s + gH_l$	誤りである。	3-(1)				
13	51	27	$p_B = p_{B'} \text{ [MPa]}$	生徒にとって理解し難い表現である。 (26行で「 $p_B = \dots \text{ [Pa]}$, $p_{B'} = \dots \text{ [Pa]}$ 」と記載しているのになぜ[MPa]なのか理解し難い。)	3-(3)				
14	53	側注5	presssure <側注7> presssure	誤記である。	3-(2)				
15	63	7 - 8	水面の高さはA, Bともに同じで $x = x'$ となる。 <図2-36> $x \quad x'$	生徒にとって理解し難い表現である。 (図2-36で「 x 」・「 x' 」はそれぞれAの高さ・Bの高さを示す数値であるとは判断できず, 理解し難い。)	3-(3)				
16	64	3	..., パッキン押さえ・主軸軸受などで...	脱字である。 (「主軸軸受」)	3-(2)				
17	67	12 - 13	羽根の下面では, ガイドベーンが減速し加圧されて吐出し側に送り出される。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「ガイドベーン」が「減速し」「加圧されて」「送り出される」とはどういうことか理解し難い。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-7		学校 高等学校		教科 工業	種目 原動機	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
18	98	側注1	pumptu-rbine	不正確である。 (ハイフネーション)	3-(1)	
19	99	図2-82	損水式水力	誤記である。	3-(2)	
20	107	4	$P=Fv=\dots$	誤記である。	3-(2)	
21	113	図2-101	4ポート2位置手動切換弁	生徒にとって理解し難い表現，図である。 (図の記号は「手動」ではなく理解し難い。)	3-(3)	
22	122	図3-10	① ② V_2 V_1 ①' ②'	生徒にとって理解し難い表現，図である。 (14-15行「A (12-11) [m3]は，気体の膨張による増加分の体積なので，これを (V_2-V_1) [m3]とすれば，」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
23	123	15	気体がなす仕事 ΔW_i <17行，20行，26行> ΔW_i <24行> ΔW	生徒にとって理解し難い表現である。 (側注1「 Δ (デルタ) は，ごくわずかな変化量を表すときに用いる。」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
			<図3-11> 仕事 ΔW_i			
24	127	6-8	一般に気体は，内部エネルギーU[J]のほかに，圧力p[Pa]と体積V[m3]の積であるpV[J]のエネルギーをもっている。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「pV[J]のエネルギーをもっている。」について理解し難い。)	3-(3)	
25	127	側注3	cons-tant	不正確である。 (ハイフネーション)	3-(1)	
26	134	1-4	物体が一定の温度T[K]のもとで，熱量Q[J]を授受するとき，その熱量Q[J]を，絶対温度T[K]で割った値S[J/K]をエントロピーの変化量といい，次の式で表される。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「エントロピーの変化量」について理解し難い。12行の等式において左辺中・右辺中にある「 \rightarrow 」について理解し難い。図3-20及び21・22行の「S1」「S2」「S3」「S4」と「S①」「S②」「S③」「S④	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-7		学校 高等学校		教科 工業	種目 原動機	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			$S=Q/T$ [J/K] (26) <8-12行> エントロピーの変化量は各々 $S①→②=S②-S①=Q1/T1$ [J/K] $S③→④=S④-S③=Q2/T2$ [J/K]	」との違いについて理解し難い。22行「 $Q2=T2$ ($S3-S4)=…$ 」と11行「 $…=S④-S③=Q2/T2$ 」との違いについて理解し難い。)		
			となるが、図3-20より $S①→S②=S③→S④$ であることがわかる。			
27	143	図3-29	<②圧縮行程> 燃料をフューエルインジェクションポンプから霧状に噴射すると、	生徒にとって理解し難い表現である。(図では「フューエルインジェクションポンプから霧状に噴射」しておらず理解し難い。)	3-(3)	
28	152	側注11	⑪ relief valve ; 逃し弁ともいう。 …に設けられ、…を防ぐ。 <側注12> ⑫ oil gallery <側注13>	生徒にとって理解し難い表現、図、側注である。(152ページ全体で側注11・側注12に該当する箇所が見当たらず理解し難い。側注11・側注13ともに「relief valve」になっており理解し難い。)	3-(3)	
			⑬ relief valve <152ページ> (全体)			
29	154	図3-48	冷却ファン	生徒にとって理解し難い表現、図である。(図タイトルは「冷却フィン」であり理解し難い。図の「冷却ファン」は16-17行「エンジンあるいはモータと連動したファン」のように見えず理解し難い。)	3-(3)	
30	159	7	進角装置	生徒にとって理解し難い表現である。(図3-55では「真空進角装置」と表記が異なっており理解し難い。)	3-(3)	
31	163	図3-59	(インジェクションポンプからフューエルポンプへの矢印) (フューエルインジェクションポンプからフューエルポンプへの矢印)	生徒にとって理解し難い表現、図である。(図中どちらの矢印にも「フューエルタンクへ」という文章が添えられており理解し難い。)	3-(3)	
32	163	図3-59	フューエルインジェクションポンプ	生徒にとって理解し難い表現である。(164ページ16-18行「…は、図3-59に示した…のなかで、インジェクションポンプとフューエルインジェクションバルブの間に位置づけられる。」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
33	172	表3-6	<規格の名称> 土工機械－エンジン－第2部：ディーゼルエンジンの仕様書様式および性能試験方法	不正確である。(JISに照らして)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-7		学校 高等学校		教科 工業	種目 原動機	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
34	174	側注6	effecti-ve	不正確である。 (ハイフネーション)	3-(1)	
35	177	側注1	consumpti-on	不正確である。 (ハイフネーション)	3-(1)	
36	195	図4-9	<(a) 図> D特殊22.1% D特殊12.6%	生徒にとって理解し難い表現である。 (「D特殊」がなぜ2つあるのか理解し難い。)	3-(3)	
37	196	図4-10	(円グラフの「自動車 17.8%」「運輸 18.5%」)	生徒にとって理解し難い表現, 図である。 (円グラフの形状からみてなぜ%の値が異なるのか理解し難い。)	3-(3)	
38	200	9 - 10	タイヤの回転数nt[min-1]と, エンジンの回転数n[min-1] <201ページ9-10行> タイヤの回転数nt[s-1] <201ページ14行>	生徒にとって理解し難い表現である。 (「回転数」と「回転速度」について理解し難い。)	3-(3)	
			エンジンの回転数n[s-1]とタイヤの回転数nt[s-1] <202ページ20行・25行> 回転数 <214ページ17-18行>			
			エンジンの回転数が6000min ⁻¹ で…駆動輪タイヤの回転数[min-1]を求めよ。 <214ページ19-20行> 駆動輪タイヤの回転数[min-1]			
			<173ページ図3-72> 回転速度n[min-1] <201ページ17行> エンジンの回転速度n[s-1] <214ページ27行>			
			回転速度が2000min ⁻¹			
39	203	29	$F_d = (1/2) \cdot \rho C_d A v^2$	生徒にとって理解し難い表現である。 (30-31行「空気抵抗係数Cdと前面投影面積A[m ²]に比例し, 走行速度v[m/s]の2乗に比例する。」に照らして理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-7		学校 高等学校		教科 工業	種目 原動機	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
40	204	15 - 16	走行抵抗で最も大きいものは加速抵抗と登坂抵抗であり、	生徒にとって理解し難い表現である。 (203ページ17-19行「走行抵抗は、転がり抵抗…、空気抵抗…、こう配抵抗…、および加速抵抗…を合わせたものである。」からみて理解し難い。)	3-(3)	
41	210	図4-31	<(c)タイヤサイズの表示の例> 偏平率 (%) (断面高さ÷断面積×100)	誤記である。	3-(2)	
42	213	8 - 10	この電気は図4-36に示すように、バッテリーにたくわえられる。燃料電池車は、このたくわえた電気を用いてモータを駆動することで走行する自動車であり、	生徒にとって理解し難い表現である。 (図4-36では発電された電気は駆動用バッテリーにたくわえられるだけではなく理解し難い。)	3-(3)	
43	213	側注3	燃料電池車では、エンジンが中途半端に仕事をすることとなり、	生徒にとって理解し難い表現である。 (9-11行「燃料電池車は、このたくわえた電気を用いてモータを駆動することで走行する自動車であり、ハイブリッド車のエンジンが燃料電池に変わったものとみなすことができる。」からみて理解し難い	3-(3)	
				。)		
44	234	15 - 16	理論空気量5.815m ³ N/m ³ Nの天然ガスを、空気比1.21で燃焼させるために必要な空気量[m ³ N]を求めよ。 <299ページ左段51行> 7.036m ³ N	生徒にとって理解し難い表現である。 (233ページ28-31行「実際に供給した空気量をA、理論空気量をA0[m ³ N/kg]または[m ³ N/m ³ N]としたとき、その比を空気比といい、次の式によって算出される。 空気比=A/A0」から理解し難い。)	3-(3)	
45	236	図5-15	(図中の極太線) 流体温度t[°C]	生徒が誤解するおそれのある表現、図である。 (固体内部の温度も「流体温度」であると誤解する。)	3-(3)	
46	238	14 - 15	過熱蒸気のエンタルピーをh ₂ [kJ/kg]、…の給水のエンタルピーをh ₁ [kJ/kg] <20-22行> 給水のエンタルピーh ₁ は、p.295の飽	生徒にとって理解し難い表現である。 (127ページ8行「エンタルピーH[J]」・127ページ12行「比エンタルピーh[J/kg]」や295ページ飽和蒸気表からみて、なぜ「エンタルピー」で単位が「kJ/kg」なのか理解し難い。)	3-(3)	
			和蒸気表(…)から約84kJ/kg、…のエンタルピーh ₂ は、…約3300kJ/kgを得る。 <側注5> …のエンタルピーをh ₂ [kJ/kg]			
			<側注6> …のエンタルピーをh ₁ [kJ/kg] <239ページ21-22行> …のエンタルピーをh _x [kJ/kg]、…のエンタルピーをh _e [kJ/kg]			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-7		学校 高等学校		教科 工業	種目 原動機	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			<239ページ側注6> …のエンタルピー h_x , …のエンタルピー h_e <240ページ6行> …のエンタルピー h_e			
			<240ページ11行> …のエンタルピー h_x <240ページ27-28行> 給水のエンタルピー h_1 [kJ/kg], …のエンタルピー h_2 [kJ/kg]			
			<241ページ10-11行> …のエンタルピー $h_2=3320$ kJ/kgと, …のエンタルピー $h_1=167.54$ kJ/kg			
47	264	図5-36	<(a)図右上> 「 v_2 」「 u 」の▲の位置 <(a)図中央下> 「 u 」の▲の位置	生徒にとって理解し難い図である。 (267ページ図5-40(a)図右上の「 v_2 」「 u 」及び中央下の「 u 」の▲の位置と比較して理解し難い。)	3-(3)	
48	264	8-11	図(a)において, …で流入した蒸気は, …, 絶対速度 c_1 [m/s]で噴出する。この蒸気噴流は, 相対速度 v_1 [m/s], 絶対速度 c_2 [m/s]で流出する。	生徒にとって理解し難い表現である。 (図5-36(a)において, 相対速度 v_1 で「噴出」する箇所」と絶対速度 c_2 で「流出」する箇所とは異なっており, 理解し難い。)	3-(3)	
49	267	側注3	圧力差による軸スラストをつり合わせるために, つり合いブシュに対抗して回転側に設けるシール端面をもつピストン上の部品。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「対抗して」)	3-(3)	
50	269	3	[kJ/kW・h]	表記の基準によっていない。 (SI単位)	3-(4)	
51	282	図6-5	<図中央左> MPa]	脱字である。	3-(2)	
52	298	右段1行	p. 70	誤記である。	3-(2)	
53	298	右段3行	260Kから300まで	生徒にとって理解し難い表現である。 (「300」とは何か理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-8		学校 高等学校		教科 工業	種目 電子計測制御	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	資料1		<上段> 自律型掃除用ロボット <資料3 上段 左囲み> 自律形掃除用ロボット	表記が不統一である。	3-(4)	
2	4		<下囲み> $\pi = 3.141$	不正確である。 ($\pi = 3.14159\dots$ であり丸め方は不正確である。)	3-(1)	
3	9	側注4	(全体)	不正確である。 (ドローンの説明として不正確である。)	3-(1)	
4	9	側注5	(全体) <24ページ 側注1> (全体)	生徒にとって理解し難い表現である。 (センサは「人間の感覚機能(目, 耳, 皮膚, 鼻, 舌)を実現するための検出素子」に限らず理解し難い。)	3-(3)	
5	10	1 - 2	時間に対して連続的に変化している。 このような信号をアナログ信号という。 <3-4行>	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「時間に対して」が必須条件のように誤解する。)	3-(3)	
			時間に対してとびとびの値しかもたない離散的な信号をデジタル信号という。			
6	10	図2	<図(a)> アナログ量 デジタル量 <図(b)>	生徒にとって理解し難い表現である。 (7行の「アナログ信号」と「デジタル信号」, 10行の「デジタル信号」と10-11行の「アナログ信号」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
			デジタル量 アナログ量			
7	11	側注4	practical instrumentation	不正確である。	3-(1)	
8	11	側注5	(全体)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (旧JISによる表現であり計測器について誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-8		学校 高等学校		教科 工業	種目 電子計測制御	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
9	11	10	測定量 <14行> 測定量	生徒にとって理解し難い表現である。 (2-3行の「ある量を、基準として決めた量と比較して、その何倍であるかを数値で表すことを測定といい、その数値を測定値という。」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
10	13	2	測定器 <表2> 計測器	表記が不統一である。	3-(4)	
			<7行> 計測器 <図6> 計測器			
11	13	図6	[標準器] から [企業などの計測器] への2本の矢印	生徒にとって理解し難い図である。 (2本の矢印の意味や違いについて理解し難い。)	3-(3)	
12	14	2 - 4	測定結果などを … 意味のある数字	不正確である。 (JIS Z 8103:2019と異なる。)	3-(1)	
13	21	5	スマートメーターによる電力使用量の計測 <23ページ 1行> スマートメータによる電力使用量の計測	表記が不統一である。	3-(4)	
			測			
14	23	3 - 4	コイルに流れた電流の磁束変化	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのようなことか理解し難い。)	3-(3)	
15	23	側注1	誘導系電力量計	不正確である。 (系)	3-(1)	
16	25	側注4	cirtical	不正確である。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-8		学校 高等学校		教科 工業	種目 電子計測制御	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
17	27	27	静電容量型 <図4> 静電容量形	表記が不統一である。	3-(4)	
18	29	表3	光電式スイッチ <30ページ 25行> 光電スイッチ	表記が不統一である。	3-(4)	
			<30ページ 29行> 光電スイッチ <30ページ 図8> 光電式スイッチ			
19	31	2	速度	生徒にとって理解し難い表現である。 (5行の「回転速度」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
20	33	側注1	(全体)	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのJISによるのか明確でなく理解し難い。)	3-(3)	
21	37	2 - 3	バイポーラトランジスタ <表5 特徴の欄> バイポーラ形トランジスタ (3箇所)	表記が不統一である。	3-(4)	
			<8行> バイポーラトランジスタ <11行> バイポーラトランジスタ			
			<12-13行> バイポーラトランジスタ			
22	37	表5	<素子名 パワーMOSFET> Field Effect Transistor)	誤植である。 (「」)	3-(2)	
23	38	2 - 3	抵抗RB[Ω]に加わる電圧VB[V]	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (抵抗RBの端子間の電圧のように誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-8		学校 高等学校		教科 工業	種目 電子計測制御	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
24	41	図2	<図(a)> アナログ量 <図(b)> デジタル量	生徒にとって理解し難い表現である。 (8行の「アナログ信号」、8-9行の「デジタル信号」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
25	43	3	適当な大きさにして変換する。	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのようなことか理解し難い。)	3-(3)	
26	44	5 - 8	時間の経過に対して、… A-D変換という。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「時間の経過に対して」が必須条件のように誤解する。)	3-(3)	
27	46	10 - 11	出力がアナログ信号の場合	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのようなことか理解し難い。)	3-(3)	
28	55	図7	標準化 パルス	不正確である。 (準)	3-(1)	
29	57	図10	<図(b)> (全体)	不正確である。 (f2, f3の周波数がf1の整数倍になっていない。)	3-(1)	
30	68	側注2	(全体)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「磁気の大さき」は連続的または離散的な複数の異なる値を検知できるように読みリードスイッチの働きについて誤解する。)	3-(3)	
31	68	図5	<図(c)> (全体)	不正確である。 (JIS C 0617の規格群に照らして。)	3-(1)	
32	75	図19	<図(a)> コイルの図記号 <76ページ 図20(a)> コイルの図記号	不正確である。 (JIS C 0617の規格群に照らして。)	3-(1)	
			<76ページ 図21(a)> コイルの図記号 <84ページ 図8(a)>			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-8		学校 高等学校		教科 工業	種目 電子計測制御	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			コイルTLRの図記号 <96ページ 図18(c)> コイルTLRの図記号			
			<97ページ 図19(c)> コイルTLRの図記号 <97ページ 図20(c)> コイルTLRの図記号			
			<103ページ 図25(e)> コイルTLR1の図記号 コイルTLR2の図記号 コイルTLR3の図記号			
			<108ページ 問題2 ②> コイルTLRの図記号			
33	78	図1	<図(a) 左上> P N	不正確である。 (電源の記号)	3-(1)	
34	84	6	<6行の上> ① <側注1> (全体)	生徒にとって理解し難い表現である。 (97ページで学ぶワンショット回路に照らして理解し難い。)	3-(3)	
35	89	8	テキスト形式言語 <10行> テキスト形式言語	表記が不統一である。	3-(4)	
			<図8 右上> テキスト言語 <側注4> テキスト言語			
36	89	16 - 17	入力側制御母線 出力側制御母線 <90ページ 図9(b)> 入力側母線	表記が不統一である。	3-(4)	
			出力側母線			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-8		学校 高等学校		教科 工業	種目 電子計測制御	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
37	94	11	<11行の下> p. 83	生徒にとって理解し難い表現である。 (83ページとの関係について理解し難い。)	3-(3)	
38	99	図21	<図(c)> (全体)	生徒にとって理解し難い図である。 (タイマの図記号)	3-(3)	
39	100	6	近接スイッチ <図24(a)> 光電スイッチ	表記が不統一である。	3-(4)	
			<図24(b)> 光電スイッチ <図24(d)> 光電スイッチ			
			<図24(e)> 光電スイッチ <101ページ 5行>			
			近接スイッチ			
40	100	図24	<図(a)> 運転用押しボタン <図(d)> 運転用	表記が不統一である。	3-(4)	
			押しボタン <図(e)> 運転 スイッチ			
			<101ページ 1行> 運転スイッチ			
41	100	図24	<図(a)> リセットボタン <図(d)> リセット	表記が不統一である。	3-(4)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-8		学校 高等学校		教科 工業	種目 電子計測制御	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			ボタン 〈図(e)〉 リセットスイッチ			
			〈101ページ 11行〉 リセットスイッチ			
42	100	図24	〈図(d)〉 (51個)	不正確である。 (51)	3-(1)	
43	103	図25	〈図(e)〉 (全体)	生徒にとって理解し難い図である。 (タイマ接点TLR1-a, TLR2-a, TLR3-aの図記号)	3-(3)	
44	104	7 - 9	FLTS1 FLTS2 〈17-19行〉 FLTS1	表記が不統一である。	3-(4)	
			FLTS2 〈24-27行〉 FLTS1 FLTS2			
			〈105ページ 図26(a)〉 FLTS1 FLTS2			
			〈105ページ 図26(c)〉 FLTS1 FLTS2 〈105ページ 図26(d)〉			
			FLT1 FLT2 〈105ページ 図26(e)〉 FLTS1			
			FLTS2			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検定意見書

受理番号 104-8		学校 高等学校		教科 工業	種目 電子計測制御	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
45	104	29	③	不正確である。	3-(1)	
46	117	図8	<図(a)> (比較部・制御演算部)	生徒にとって理解し難い表現である。 (制御演算部)	3-(3)	
47	118	8 - 9	アーム角度測定用ポテンシオメータ <図9(a)> アーム角測定用 ポテンシオメータ	表記が不統一である。	3-(4)	
48	122	6	図4(c), (d)	不正確である。 ((c), (d))	3-(1)	
49	128	25	$V = \int (0 \text{ t}0) q(t) dt$ (18)	生徒にとって理解し難い表現である。 (t0)	3-(3)	
50	128	側注3	$V=qt$	生徒にとって理解し難い表現である。 (q)	3-(3)	
51	128	側注4	$Q=it$	生徒にとって理解し難い表現である。 (i)	3-(3)	
52	132	4	断面積 <側注1> 断面積	生徒にとって理解し難い表現である。 (図15(a)に照らして理解し難い。)	3-(3)	
53	134	図1	<左下 吹き出し> 目標値として入力	生徒にとって理解し難い表現である。 (「時間t [s]」との関係について理解し難い。)	3-(3)	
54	135	17 - 18	2番目の行き過ぎ量Ap2	不正確である。 (2番目の行き過ぎ量)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-8		学校 高等学校		教科 工業	種目 電子計測制御	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
55	137	図3	<ブロック線図 出力信号> $y(t)=A_0 \sin(\omega t - \phi)$ <出力信号の波形図 下囲み> 位相差 $\phi = -\Delta t/T \times 360^\circ$	生徒にとって理解し難い表現である。 (ϕ の単位が異なり、また、位相差 ϕ の式には負号が付けられており、式の関係について理解し難い。)	3-(3)	
56	143	19 - 20	入力信号 出力信号	生徒にとって理解し難い表現である。 (144ページの図11に照らして理解し難い。)	3-(3)	
57	147	2 - 3	<左段> 入力信号 出力信号	生徒にとって理解し難い表現である。 (図15に照らして理解し難い。)	3-(3)	
58	154	18 - 19	制御装置に入力される制御偏差	生徒にとって理解し難い表現である。 (図1に照らして理解し難い。)	3-(3)	
59	158	図B	<反射型ホトセンサの図記号> LEDの図記号	不正確である。 (JIS C 0617の規格群に照らして。)	3-(1)	
60	161	16	速度フィードバック信号 <17行> 速度フィードバック信号	生徒にとって理解し難い表現である。 (図3に照らして理解し難い。)	3-(3)	
61	161	17	速度指令信号	生徒にとって理解し難い表現である。 (図3に照らして理解し難い。)	3-(3)	
62	161	図3	<右下> 回転角速度 <162ページ 図4 右下> 回転角速度	生徒にとって理解し難い表現である。 (「[パルス/deg]」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
63	162	図4	<中央> 速度制御偏差	不正確である。 (偏差)	3-(1)	
64	166	24	制御系設計CAD <左段 29行> 制御系設計CAD	表記が不統一である。	3-(4)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-8		学校 高等学校		教科 工業	種目 電子計測制御	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			<167ページ 図A タイトル> 制御系CAD			
65	172		<左上 図> 帰還量 偏差量 <174ページ 13行>	生徒にとって理解し難い表現である。 (3章で学んだ「フィードバック信号」, 「制御偏差」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
			帰還量 <174ページ 14行> 帰還量			
			<174ページ 15行> 偏差量 (2箇所) <174ページ 19行> 帰還量			
			<174ページ 20行> 帰還量 偏差量			
			<174ページ 21行> 偏差量 <174ページ 図3(b)> 帰還量			
			偏差量 <175ページ 13行> 帰還量			
			<175ページ 14-15行> 帰還量 <175ページ 15行> 偏差量 (2箇所)			
			<175ページ 16行> 帰還量 <175ページ 図4>			
			帰還量 偏差量 <175ページ 問1の図> 帰還量			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-8		学校 高等学校		教科 工業	種目 電子計測制御	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			偏差量 <199ページ 図15> 帰還量			
			<199ページ 11行> 偏差量 <199ページ 12行> 偏差量			
66	172		<左上 図> 右下の制御量の線 <174ページ 図3(b)> 右下の制御量の線	不正確である。 (矢印になっていない。)	3-(1)	
			<175ページ 問1の図> 右下の制御量の線			
67	174	15	制御演算部と操作部に送られ	生徒にとって理解し難い表現である。 (操作部)	3-(3)	
68	174	図3	<図(a)> (全体)	生徒にとって理解し難い図である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
69	175	6	制御対象にフィードバックする操作量	生徒にとって理解し難い表現である。 (フィードバック)	3-(3)	
70	178	12	稼働性	生徒にとって理解し難い表現である。 (一般的なRASISの指標として理解し難い。)	3-(3)	
71	185	図13	<図(a)> フライホイール ダイオード <図(b)>	生徒にとって理解し難い表現である。 (違いについて理解し難い。)	3-(3)	
			逆起電力 防止用 ダイオード			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-8		学校 高等学校		教科 工業	種目 電子計測制御	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
72	185	11	オンがオフになる	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのようなことか理解し難い。)	3-(3)	
73	188	図4	プリンタのビジー信号の波形	生徒にとって理解し難い表現である。 (HとLの変化について2値以外を生じているように見え理解し難い。)	3-(3)	
74	192	図8	<図(a)> 07 output_b(0x00); 12 output_b(0xff); <193ページ 図9(a)>	生徒にとって理解し難い表現である。 (190ページの下表の書式になく理解し難い。)	3-(3)	
			09 output_b(0x55); 11 output_b(0xaa); <195ページ 図12(a)> 09 output_b(0x08);			
75	194	図10	エンハンス型 n チャンネル	不正確である。 (エンハンス型)	3-(1)	
76	195	図12	<図(b)> (全体)	生徒にとって理解し難い図である。 (「クロック周波数を4MHzに設定」のブロック)	3-(3)	
77	198	22	行21～22 20行目 <24行> 21行目	不正確である。 (197ページの図14に照らして。)	3-(1)	
			<25行> 22行目			
78	198	側注1	アクイジョンタイム	不正確である。	3-(1)	
79	204	10 - 11	人間が操作するマニピュレータ	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (人間が操作する産業用ロボットをマニピュレータ というように誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-8		学校 高等学校		教科 工業	種目 電子計測制御	学年
番号	指摘箇所		指 摘 事 項	指 摘 事 由	検 定 基 準	
	ページ	行				
80	206	表1	<802.11ax 最大伝送速度> 9.6Gpbs	誤記である。 (pbs)	3-(2)	
81	207	29 - 30	その変化を即時に計算・処理を制御系 に伝える処理方法	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのようなことか理解し難い。)	3-(3)	
82	208	24	自動部品実装機 <209ページ 図7(d) タイトル> 自動部品挿入機	表記が不統一である。	3-(4)	
			<210ページ 11行> 自動部品挿入機 <211ページ 19行> 自動部品挿入機			
			<217ページ 問題9の語群> 自動部品挿入機			
83	212	図10	<左上 吹き出し (2箇所) > 使用開始・停止 契約変更 検針値	不正確である。 (矢印の向きに照らして。)	3-(1)	
			(30分値)			
84	214	側注1	計器用変流器または変成器。	不正確である。 (計器用, 変成器)	3-(1)	
85	216	15	アセンブリ言語で直接機械語を扱う方 法	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのようなことか理解し難い。)	3-(3)	
86	217	12	クライアントサーバ方式では、提供す るサービスの種類によって異なる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (何が異なるのか理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-9		学校 高等学校		教科 工業	種目 通信技術	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	2		<左段 11行> 2 コンピューターネットワークの種類	不正確である。 (12ページの5行に照らして。)	3-(1)	
2	3		<左段 27行> 2 情報の記憶・再生装置	不正確である。 (225ページの1行に照らして。)	3-(1)	
3	3		<左段 28行> 1 情報の記憶方式	不正確である。 (225ページの4行に照らして。)	3-(1)	
4	3		<右段 5行> 2 通信に関する法規	不正確である。 (238ページの1行に照らして。)	3-(1)	
5	3		<右段 8行> 3 電気通信事業に関する法規	不正確である。 (244ページの1行に照らして。)	3-(1)	
6	27	13 - 14	中規模LAN内のコンピュータA	生徒にとって理解し難い表現である。 (図26のコンピュータAの設定は「192.168.2.1」であり26ページの表4に照らして理解し難い。)	3-(3)	
7	58	図5	<タイトル> 基本形データ伝送手順	生徒にとって理解し難い表現である。 (伝送手順)	3-(3)	
8	66	側注2	(全体)	生徒にとって理解し難い表現である。 (パルス幅との対応は変調方式により異なり理解し難い。)	3-(3)	
9	66	11	パルス幅 <15行> パルス幅	生徒にとって理解し難い表現である。 (変調波はパルスとは限らず理解し難い。)	3-(3)	
			<67ページ 17行> パルス幅			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-9		学校 高等学校		教科 工業	種目 通信技術	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
10	71	11 - 12	光の屈折現象を利用	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (光ファイバにおいて光が屈折率の異なる媒質を出入りしながら伝わるように誤解する。)	3-(3)	
11	77	表3	<その他 中段> 接続のための機器 (図14(b)) を必要としないものもある。	生徒にとって理解し難い表現である。 (図14(b)の機器を用いた接続の説明であり理解し難い。)	3-(3)	
12	101	23	占有周波数帯域幅 <28行> 占有周波数帯域幅	表記が不統一である。	3-(4)	
			<102ページ 図2(a)> 占有周波数帯幅 <102ページ 図2(b)> 占有周波数帯幅			
13	104	8	<8行の下> p. 211	不正確である。	3-(1)	
14	106	1 - 4	<例題1> (全体)	生徒にとって理解し難い表現である。 (例題1はFMラジオ受信機を題材としておりAM受信機の学習に照らして理解し難い。)	3-(3)	
15	109	6	変調波 v_m	生徒にとって理解し難い表現である。 (式(9)に照らして理解し難い。)	3-(3)	
16	109	8	信号波 $v_s = V_{sm} \sin 2\pi f_s t$ (8) <12行> $f = f_c + k_f v_s = f_c + k_f V_{sm} \sin 2\pi f_s t$ (10)	生徒にとって理解し難い表現である。 (式(8)と式(10)はsin関数、図12はcos関数であり理解し難い。)	3-(3)	
			<図12> 信号波の波形			
17	114	15	副搬送波で平衡変調して	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのようなことか理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-9		学校 高等学校		教科 工業	種目 通信技術	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
18	114	側注6	double sideband <115ページ 側注3> double side band	表記が不統一である。	3-(4)	
19	119	19 - 20	SSB通信	生徒にとって理解し難い表現である。 (表2に照らして理解し難い。)	3-(3)	
20	144	図11	<図(a)> 200 kΩ	生徒にとって理解し難い表現である。 (9行の「200Ω」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
21	144	8	LED (OSDR5113A) IC内蔵ホトダイオード (S7183) <図11(b)> S7183	特定の商品の宣伝になるおそれがある。	2-(7)	
22	153	側注4	Huff man	不正確である。	3-(1)	
23	155	図13	NJL7502L OSDR5113A <表2> NJL7502L	特定の商品の宣伝になるおそれがある。	2-(7)	
			OSDR5113A			
24	163	1	画素が正方形になるように数えたとき	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのようなことか理解し難い。)	3-(3)	
25	184	図8	<図(b)> (全体)	生徒にとって理解し難い図である。 (右端)	3-(3)	
26	196	側注2	biometrics authentic- cation	不正確である。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-9		学校 高等学校		教科 工業	種目 通信技術	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
27	202	側注3	共通暗号方式	不正確である。	3-(1)	
28	218	側注1	約2.54cm	不正確である。 (約)	3-(1)	
29	231	13	書き換え型CD <232ページ 9行> 書き換え型CD	表記が不統一である。	3-(4)	
30	240	1	<1行の下> 第28条～第38条	不正確である。	3-(1)	
31	243	7	<7行の下> 第38条9項	不正確である。 (9)	3-(1)	
32	243	12	<12行の下> 第17条	不正確である。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-10		学校 高等学校		教科 工業	種目 ソフトウェア技術	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	表見返 2	下囲み	DOS (disc operating system)	不正確である。 (disc)	3-(1)	
2	13	側注4	graphic user interface (以下 15ページ側注1 graphical user interface)	表記が不統一である。	3-(4)	
3	16	18	プログラミング言語 (以下 17ページ2行 プログラミング言語 179ページ19行 プログラミング言語)	表記が不統一である。	3-(4)	
			16ページ14行 プログラム言語)			
4	22	24	大形のコンピュータ (以下 21ページ10行 大型コンピュータ)	表記が不統一である。	3-(4)	
5	25	図1- 23	SFA営業支援システムと周囲の矢印 …の閲覧 …の登録	相互に矛盾している。 (営業担当者とそれ以外で向きが異なる。)	3-(1)	
6	31	11	ネットワーク	脱字である。	3-(2)	
7	45	図2- 5	保守容易性がすぐれている (以下 図見出し 保守性)	表記が不統一である。	3-(4)	
8	47	側注5	⑤kernel 梅や桃などの果実の核の中にある仁の こと。	生徒にとって理解し難い表現である。 (OSと果実の関係について理解し難い。)	3-(3)	
9	63	4	OSよって	脱字である。	3-(2)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-10		学校 高等学校		教科 工業	種目 ソフトウェア技術	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
10	75	図3-7	(c) RAID6 ハードディスク4台の中 A1 Bp2 A2 B1 Ap1 B2	不正確である。 (Bp1が無い。)	3-(1)	
			Ap2 Bp2			
11	75	側注4	1024(20 ¹⁰)	誤記である。	3-(2)	
12	126	図4-23	サーバ室 重要情報の取り扱いあり 執務室 重要情報の格納場所	誤りである。 (格納場所)	3-(1)	
13	134	図4-28	MACアドレス： 12-34-56-78-90-zz	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (zz)	3-(3)	
14	136	3	確認することが需要である。	誤記である。	3-(2)	
15	136	図4-29	意匠権 登録から20年	不正確である。 (登録から20年)	3-(1)	
16	138	16 - 17	規程 (以下 表4-10 規定)	表記が不統一である。	3-(4)	
17	163	22	表している＝。	誤記である。	3-(2)	
18	163	図5-23	「在庫状況を更新する」への矢印 「在庫を確認する」からは有り 「返却する」からは無し	相互に矛盾している。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-10		学校 高等学校		教科 工業	種目 ソフトウェア技術	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
19	173	図5-29	(a)の操作 + getVal(val:int):int (b)のプログラム public int setVal(int val) {	相互に矛盾している。	3-(1)	
20	190	側注1	インターネット上での情報の場所や情報の場所などを指定する	誤記である。	3-(2)	
21	192	表5-4	thの行 中央揃いで太字でとなる。	誤記である。	3-(2)	
22	192	図5-54	右中吹き出し <input type "submit value="スタート">	誤記である。	3-(2)	
23	194	図5-60	上吹き出し charaset は,	誤記である。	3-(2)	
24	195	図5-62	width: 幅をピクセルに指定～ box-shadow: 水平方向に5px, 垂直方向5p, ぼかしの距離を5の～	脱字である。	3-(2)	
25	195	図5-62	background-image: linear-gradient (45deg, #aaa8f8 0%, #0a3080	不正確である。 (途中で切れている。)	3-(1)	
26	197	図5-66	右中吹き出し document.getElementById	不正確である。 (getElementById)	3-(1)	
27	197	図5-66	右中吹き出し toLocaleTimeString	誤記である。	3-(2)	
28	200	23	(イ) カプセル化 (イ) 継承	誤記である。	3-(2)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-12		学校 高等学校		教科 工業	種目 建築施工	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	6	9 - 10	施工管理技士（建築施工，建設機械，管工事など）	不正確である。 （建設業法施行令における「検定種目」からみて）	3-(1)	
2	24	3	桁方向	生徒にとって理解し難い表現である。 （25ページ5行「桁方向」とどう違うのか理解し難い。）	3-(3)	
3	24	図17	G.L	生徒にとって理解し難い表現である。 （13ページ図3「G.L.」とどう違うのか理解し難い。）	3-(3)	
4	25	図18	<左図（側面）> （「筋かい」の引出し線）	生徒にとって理解し難い図である。 （引出し線先端の黒丸と破線との位置関係について理解し難い。）	3-(3)	
5	34	図2	作業環境（騒音・温熱・証明等の欠陥）	生徒にとって理解し難い表現である。 （「証明」とは何か理解し難い。「…の欠陥」が「作業環境」であるとはどういうことか理解し難い。）	3-(3)	
6	47	図18	<(a)図> （「砂だまり」右上の矢印）	生徒にとって理解し難い図である。 （矢印のみで文字がなく理解し難い。）	3-(3)	
7	50	図23	ブレードコンパクター	誤記である。	3-(2)	
8	51	側注1	JIS A 5372:2010, 5373:2010	不正確である。 （「2010」（2箇所））	3-(1)	
9	51	側注2	JIS A 5525:2009	不正確である。 （「2009」）	3-(1)	
10	54	図7	（「拡底部径」の下）	生徒にとって理解し難い図である。 （寸法線がなく理解し難い。）	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-12		学校 高等学校		教科 工業	種目 建築施工	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	55	図8	7 杭処理	生徒にとって理解し難い表現である。 (「杭処理」とは何か理解し難い。)	3-(3)	
12	59	側注4	→p. 267 <側注5> →p. 267	生徒にとって理解し難い表現である。 (267ページは「建設業における死亡事故の発生状況」であり、「ランマー」「振動コンパクター」との関係について理解し難い。)	3-(3)	
13	59	17 - 20	割石地業は、…などの硬い割石を根切り底に敷込み、すきまに目つぶし砕石(切込砕石・砕石など)をすきまなく充填したのち、…でよく締固め、支持面とする地業である(図3)。	生徒にとって理解し難い表現である。 (60ページ図3では「目つぶし砂利」とあり、「目つぶし砕石」とどちらがうのか理解し難い。10行「切込砂利」・側注1「採取したままで土、砂が混じった状態の砂利。」と比較して、「切込砕石」とはどう	3-(3)	
				いうものか理解し難い。)		
14	61	図6	静的締固め砂杭	生徒にとって理解し難い表現である。 (62ページ1行・4行、63ページ図9「静的締固め砂杭工法」とどう違うのか理解し難い。)	3-(3)	
15	68	側注2	セメント系またはせっこう系の自然流動材で、…で仕上げるもの。SLともいう。	不正確である。 (「セメント系またはせっこう系」「SL」)	3-(1)	
16	76	27 - 28	なお、建築物の囲いに、防湿シートをこの段階で張ることも多い。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「建築物の囲い」)	3-(3)	
17	77	7 - 8	また、耐震・耐火・耐久・省エネルギーなどの性能にもすぐれている。	生徒にとって理解し難い表現である。 (何と比較して、なぜすぐれているのか、といった説明が何もなく、理解し難い。)	3-(3)	
18	77	側注3	JAS 303:2014	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	
19	79	図13	<①> TS <②> JH-208・210 <③>	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (記号の意味について理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-12		学校 高等学校		教科 工業	種目 建築施工	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			BH3-212 <④> LH-206 <⑤> S-45			
20	81	図4	<(a)図> 瓦棧	生徒にとって理解し難い図である。 (引出し線の先端黒丸近傍の図について理解し難い。)	3-(3)	
21	85	図15	間柱	生徒にとって理解し難い図である。 (下地板の隙間から見える間柱について理解し難い。)	3-(3)	
22	87	側注1	→p. 102	不正確である。 (「かもい①」に対する参照先として)	3-(1)	
23	87	表1	<ばら状断熱材／吹付け> ○ <現場発泡断熱材／吹込み> ○	不正確である。 (表下に「日本建築学会編「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 24 断熱工事」より作成」と記載されているが、当該出典での記述と異なっている。)	3-(1)	
24	113	図22	<(a)図> D16以下は3d, D19～41は4d	不正確である。 (「3d」「4d」)	3-(1)	
25	113	図22	<(b)図> d：呼び方に用いた数値	誤記である。 (「呼び方」)	3-(2)	
26	114	図23	鉄筋の最大径	不正確である。 (「最大径」)	3-(1)	
27	115	6 - 7	外観試験②	生徒にとって理解し難い表現である。 (参照先である側注2及び図26では「外観検査」という用語を使用しているのに、なぜそれらと異なる「外観試験」という用語をここで使い分けしているのか理解し難い。)	3-(3)	
28	119	18	寸法精度の不良や型くずれの場合は、	生徒にとって理解し難い表現である。 (「型くずれ」とは何か理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-12		学校 高等学校		教科 工業	種目 建築施工	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
29	120	図1	鉄筋足場の組立て <5行> 2 鉄筋足場の組立 <128ページ図15> 柱の型枠の組立例	表記が不統一である。	3-(4)	
			<128ページ図16> 壁の型枠の組立て例 <129ページ図19> 梁の型枠の組立て例 <129ページ13行>			
			梁の型枠の組立て例 <129ページ図21> スラブの型枠の組立て例 <230ページ図6> 支保工組立			
			型枠組立て 鉄筋組立て			
30	123	図2	(c)根巻き・設備配管の例	生徒にとって理解し難い表現，図である。 (図には「設備配管の例」についての記述はなく理解し難い。)	3-(3)	
31	127	8 - 10	…できるように，スペーサーや鉄筋のサポート（図11，12）を配置する。 <270ページ3列8行> 鉄筋のサポート…127	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「スペーサー」とは異なり)用語として「サポート」と表記するのは不適切であり，必ず「鉄筋のサポート」と表記する必要がある，と誤解する。)	3-(3)	
32	127	図11	(c) 打放し仕上げスラブ用 (鋼製・キャップ付プラスチック製)	生徒が誤解するおそれのある表現，図である。 (プラスチック製サポートが問題なく使用できると誤解する。)	3-(3)	
33	131	側注2	計画供用期間の級は，躯体の耐用年数で分かれ，短期10年(…)，標準65年(…)，長期は100年(…)である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (日本建築学会編「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事」1.6での記述からみて理解し難い。)	3-(3)	
34	136	側注3	塩化ビニル系樹脂シート	生徒にとって理解し難い表現である。 (図6「塩化ビニル樹脂系シート」とどう違うのか理解し難い。)	3-(3)	
35	136	9	じゅうぶんな乾燥が必要である。	不正確である。 (1-4行「シート防水の工法は，…などの薄い不透水性のルーフィングシートを…としたり，固定金具によって固定したりして，防水層を形成する工事である。」からみて)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-12		学校 高等学校		教科 工業	種目 建築施工	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
36	140	12 - 14	張石工事は、…花こう岩・大理石、…を、壁・床などに張付ける工事である。	不正確である。 (137ページ11行「2 外壁」の中での記載であること、及び日本建築学会編「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 9 張り石工事」4.1での記述からみて)	3-(1)	
37	142	23 - 24	下塗材は主材に対する下地の吸込みや付着性を高めるため、だれや塗り残しがないように塗布する。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「主材に対する下地の吸込み」とはどのようなことか理解し難い。なぜ「吸込み」を「高める」ことが必要なのか理解し難い。)	3-(3)	
38	147	図26	<内断熱工法> (図の屋根スラブ)	生徒にとって理解し難い図である。 (屋根スラブ中央付近は屋外側にのみ断熱材があり、側注5「外壁や屋根などの構造体の屋内側に断熱層を設ける工法をいう。」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
39	148	1 - 3	屋根の断熱防水工法は、表7のような外断熱工法や、屋根スラブ下に硬質ウレタンフォームを吹き付ける内断熱工法がある。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「屋根スラブ下に硬質ウレタンフォームを吹き付ける内断熱工法」がなぜ「屋根の断熱防水工法」のひとつと位置付けられるのか理解し難い。)	3-(3)	
40	148	表7	工法の特徴	生徒にとって理解し難い表現、表である。 (「工法の特徴」という「仕上げ」とは何か理解し難い。)	3-(3)	
41	148	7 - 11	(a) 外断熱 外側の型枠にボード状断熱材を型枠に取付ける打込み工法や、接着剤で張付ける張付け工法がある。 (b) 内断熱 型枠の内側にボード状断熱材を張付ける打込み工法や、現場で	生徒にとって理解し難い表現である。 (「…の型枠に…を型枠に取付ける」とはどのようなことか理解し難い。張付け工法では、接着剤で何をどこに「張付ける」のか理解し難い。打込み工法では、ボード状断熱材を「取付ける」場合と「張付け	3-(3)	
			断熱材を吹き付ける吹付け工法(…)があり、…	る」場合とどう違うのか理解し難い。内断熱・打込み工法でボード状断熱材を「張付ける」際に接着剤を使用するのかしないのか理解し難い。)		
42	148	側注1	JIS A 9526:2006	不正確である。 (「2006」)	3-(1)	
43	150	21 - 22	鋼製壁下地は、軽量鉄骨であるランナー・スタッド・振れ止めおよびスペーサーなどの材料③で構成される(図5)。 <側注3>	生徒にとって理解し難い表現である。 (JIS A 6517:2010では「ランナ」「スペーサ」と表記されており理解し難い。)	3-(3)	
			③ →JIS A 6517:2010 <151ページ図5> ランナー (2箇所) <151ページ1-2行・4行・10-11行> ランナー			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-12		学校 高等学校		教科 工業	種目 建築施工	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			<151ページ9行> スペーサー			
44	152	図8	<(a)> テーパーエッジ	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
45	152	18 - 19	直張り工法(図9)は、コンクリート面に直接、せっこう系直張り用接着材を使用してせっこうボードを張付ける工法である。 <図9>	表記が不統一である。	3-(4)	
			接着剤			
46	153	1 - 3	4 タイル張り 張付け工法は外壁で使用する工法のほかに、接着剤張り(図10)を使用することが多い。 <図10> (全体)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (138ページ12行~140ページ11行(「外壁」の「タイル張り」)では図10のような接着剤張りが使用できないと誤解する。)	3-(3)	
47	154	1 - 2	2 塗装仕上げ 床の塗装仕上げには、モルタル塗のほか、セルフレベリング材塗がある。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「塗装仕上げ」について理解し難い。)	3-(3)	
48	157	1 - 6	乾式二重床は、…などのパネルに支持脚を取付けたユニットを敷き並べて下張り用の合板とフローリングボードを張付ける工法で、給水管などの設備配管をしやすく、集合住宅の床によく利用されている(図20)。 床のパネルが独立して設置されるので、床パネルの段差やがたつきが発生しないよう精度よく施工する。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (乾式二重床は「パネルに支持脚を取付けたユニットを敷き並べ」るものしかないと誤解する。乾式二重床の上には必ず「下張り用の合板とフローリングボードを張付ける」と誤解する。乾式二重床は必ず	3-(3)	
			用されている(図20)。 床のパネルが独立して設置されるので、床パネルの段差やがたつきが発生しないよう精度よく施工する。	「床のパネルが独立して設置される」と誤解する。)		
49	165	13	1/1の縮尺	生徒にとって理解し難い表現である。 (「JIS Z 8314:1998(製図-尺度)」からみて理解し難い。)	3-(3)	
50	181	側注1	建築基準法第2条に示された主要構造部とは、壁、柱、床、梁、屋根、階段をいう。 →建築基準法施行令第107条	生徒にとって理解し難い表現である。 (6行「耐火被覆」への側注になぜこれらの表現が記載されているのか理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-12		学校 高等学校		教科 工業	種目 建築施工	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
51	183	側注1	→p. 133～136	不正確である。 （「136」）	3-(1)	
52	189	図1	<平成15年> 耐震性なし 約1550万戸	誤りである。 （「1550」）	3-(1)	
53	202	側注1	材料、建築物、生産についての発生から衰退までの過程。	生徒にとって理解し難い表現である。 （「衰退」について理解し難い。）	3-(3)	
54	206	表1	<劣化の分類> ②鉄筋侵食先行型劣化 <特徴> 薄い円すい状はく離（ポップアップ）	誤記である。 （「侵食」「ポップアップ」）	3-(2)	
55	207	3 - 7	はく離・はく落を防止する観点から、 図8のようなひび割れ、欠損、浮き、 エフロッセンスなどの劣化の点検を 行い、吹付けや塗装仕上げでは、変色 ・退色による色むら、浮き、はがれ、	生徒にとって理解し難い表現である。 （図8のような外装仕上げの劣化について点検を行う ことで、何のはく離・はく落を防止するのか理解し 難い。）	3-(3)	
			チョーキング、シーリング材のはく離 ・破断やシーリング目地まわりの汚れ などについて点検する。 <図8> （全体）			
56	210	側注3	労働衛生法	脱字である。	3-(2)	
57	214	側注1	廃棄物の処理及び製造に関する法律	誤記である。 （「製造」）	3-(2)	
58	215	8	1 解体工事の種類	生徒にとって理解し難い表現である。 （8-14行・表2・図1・216ページ図2からみてなぜ「 解体工事の種類」なのか理解し難い。）	3-(3)	
59	219	上段	（図全体） ネットワーク工程表の例	生徒にとって理解し難い図、表現である。 （図は231-233ページの「ネットワーク工程表」のよ うには見えず理解し難い。）	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-12		学校 高等学校		教科 工業	種目 建築施工	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
60	240	図3	住宅局大臣官房官庁営繕部	不正確である。 (組織の名称として)	3-(1)	
61	255	表2	(全体)	生徒にとって理解し難い表である。 (254ページ12-14行では「柱…、…、基礎F1の各1か所あたりの型枠面積およびコンクリート体積を算出しなさい。」とあるが、表2には基礎F1の記載がなく理解し難い。)	3-(3)	
62	256	30	SD295A	不正確である。 (「A」)	3-(1)	
63	258	側注1	JIS G 3112:2010	不正確である。 (「2010」)	3-(1)	
64	266	下段	産業別の労働災害発生状況一2 (全体) <267ページ> 建設業における死亡事故の発生状況 (全体)	生徒にとって理解し難い表現、図、グラフである。 (266ページの「人」は、33ページ9-10行「労働者が仕事や通勤中に負傷したり、病気になったり、死亡する災害のことを労働災害という。」に照らして、労働災害のうちの何の人数なのか理解し難い。267	3-(3)	
				ページのグラフの数字は単位が何か記載されておらず理解し難い。)		
65	裏見返 4	上段左	午前作業	生徒にとって理解し難い表現である。 (「午前作業」とは何か理解し難い。基礎工事、基礎天端均し(67-68ページ)は午前にしか作業できないわけではなく理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-13		学校 高等学校		教科 工業	種目 建築法規	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	39	図3	(紫色の斜線2本)	不正確である。 (「D1/H1」「D2/H2」に対応していない)	3-(1)	
2	80	29	令129条2の3	脱字である。	3-(2)	
3	85	図2	<火災の進展> 令第5章の2 特殊建築物の内装 令第5章の4 建築設備など 非常用の昇降機 令第7章の2 防火・準防火地域内の建	不正確である。 (「特殊建築物の」ではない。「建築設備など」ではない。「非常用の昇降機」ではない。「防火・準防火地域」ではない。)	3-(1)	
			築物			
4	85	図2	7.2 その他の延焼防止対策 (法22, 23条, 令109条の3) <107ページ13-20行> 2 その他の延焼防止対策 …についても, …においては, …が	生徒にとって理解し難い図, 表現である。 (図中の表現と107ページ本文中の表現との違いについて理解し難い。)	3-(3)	
			定められている。 ① …とする (法22条, 令109条の8)。 ② …とする (法23条)。			
5	85	図2	7.1 防火地域・準防火地域の建築物 (令136条の2, 2の2)	生徒にとって理解し難い表現である。 (「2の2」とは何か理解し難い。)	3-(3)	
6	85	図2	5.1 避難誘導対策 (消防令26条) <98ページ6-11行> 1 避難誘導対策 …伝えることである。…が義務づけられている (消防令24条1項~3項)。	生徒にとって理解し難い図, 表現である。 (図中の表現と98ページ本文中の表現との違いについて理解し難い。)	3-(3)	
7	117	12 - 13	…である (都計法8条1項二号, 9条13項)。	不正確である。 (「13項」)	3-(1)	
8	117	21 - 22	…で定める (都計法9条14項, …)。	不正確である。 (「14項」)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-13		学校 高等学校		教科 工業	種目 建築法規	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
9	121	側注4	法57条の5	生徒にとって理解し難い表現である。 (法57条の5は「高層住居誘導地区」についてのものであり、なぜ「日影規制④」についての側注に示されているのか理解し難い。)	3-(3)	
10	145	8 - 9	…適用される(令135条の12 1項一号)。 <14行> …適用される(令135条の12 1項二号)。	不正確である。 (「1項」)	3-(1)	
11	149	表1	用途緩和型(法68条の25項)	生徒にとって理解し難い表現である。 (「法68条の25項」)	3-(3)	
12	153	18	区市町村 <26行> 区市町村長	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「区」について誤解する。)	3-(3)	
13	173	5 - 6	また、施工者は、工事に関する設計図書を、工事現場に備えておかなければならない(法89条、規則11条)。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「規則11条」について理解し難い。)	3-(3)	
14	186	2	士法10条の2の2	生徒にとって理解し難い表現である。 (「士法10条の2の2」は存在せず、「士法10条の2」はあるが、「報告、検査等」についてのものであり、理解し難い。)	3-(3)	
15	186	表4	<表示行為(士法20条)> 構造計算によって建築物の安全性を確かめた場合は、その証明書を設計の委託者に交付すること(構造設計・設備設計に関する特例が適用される場合は除く)。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「設備設計に関する特例が適用される場合」について理解し難い。)	3-(3)	
16	187	表5	3年生短期大学 2年生短期大学	誤記である。	3-(2)	
17	200	12	マンションの管理の適正化の推進に関する法律 <13-14行> マンションの建替え等の円滑化に関する法律	表記が不統一である。	3-(4)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-14		学校 高等学校		教科 工業	種目 社会基盤工学	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	表見返 1・2		(全体)	不正確である。	3-(1)	
2	口絵4	下段右	<凡例> 大きな隕石	誤記である。	3-(2)	
3	12	図1- 12	(図全体)	生徒にとって理解し難い図である。 (図下に「令和2年版国土交通白書(国土交通省)による」と記載されているが、当該出典における図の横軸は「(平成)30」までになっており理解し難い。)	3-(3)	
4	13	図1- 13	日本人海外旅行者数(2箇所)	不正確である。 (出典と異なる。)	3-(1)	
5	13	図1- 14	<Y軸> (万トン) <X軸> 2006 07 08 09 … 15 16 <側注3>	不正確である。 (Y軸の単位は「万トン」ではない。X軸の目盛と2006～16頃までの数値との位置が一致しない。出典では「2006」「年」ではない。)	3-(1)	
			2006年を100とする。			
6	14	図1- 15	新八千代	誤記である。	3-(2)	
7	17	側注2	正式名を東北地方太平洋沖地震という。	不正確である。 (10行「東日本大震災②」についての側注として。237ページ表4-9・側注3の記述とも異なっている。)	3-(1)	
8	23	図1- 28	日本の地上気温の変化(1898～2009年)	不正確である。 (「2009」)	3-(1)	
9	42	表1- 4	<第三次全国総合開発(三全総)／開発方式など> 大都市への入口と産業の集中	誤記である。 (「入口」)	3-(2)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-14		学校 高等学校		教科 工業	種目 社会基盤工学	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
10	44	図1-62	注. EJ=1018J	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	
11	45	図1-64	<X軸> (年) <46ページ13-15行> 2018 (平成30) 年におけるLNGの輸入比率は, …97.7%であり, …された (不正確である。 (出典と異なる。「年」ではない。)	3-(1)	
			図1-65)。 <46ページ図1-65 X軸> (年)			
12	46	11	2014 (平成26) 年 <12行・16行> 2018 (平成30) 年	不正確である。 (「年」ではない。)	3-(1)	
13	50	表2-1	(表全体)	生徒にとって理解し難い表である。 (表上に「令和2年度国土交通省統計情報」による」と記載されているが, 当該出典と異っており, 理解し難い。)	3-(3)	
14	51	図2-7	全距離に占める割合	不正確である。 (出典と異なる。「全距離」ではない。)	3-(1)	
15	64	側注2	道路構造令という法律	不正確である。 (「法律」)	3-(1)	
16	90	図2-63	テレポート	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	
17	97	図2-78	広島西★ 石垣▲	不正確である。 (図に「令和2年版国土交通白書」(国土交通省)による」と記載されているが, 当該出典での記述と異なっている。)	3-(1)	
18	106	図2-97	(第三京浜道路 港北JCT以西)	不正確である。 (供用区間として)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-14		学校 高等学校		教科 工業	種目 社会基盤工学	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
19	112	図2-113	(全体)	生徒にとって理解し難い図である。 (図に「令和2年版環境白書」(環境省)による」と記載されているが、当該出典での記述と異なっており理解し難い。)	3-(3)	
20	118	表2-31	<旅客船ターミナル/全体に対する割合> 100.0%③ <側注3> 視覚障害者誘導用ブロックや障害者用	生徒にとって理解し難い表現、表である。 (側注3の内容からみて、なぜ旅客船ターミナル/全体に対する割合の「100.0%」に側注3がついているのか理解し難い。表下に「令和2年版国土交通白書」(国土交通省)による」と記載されているが、側	3-(3)	
			トイレの設置割合も、鉄軌道駅で90.4%、航空旅客ターミナルで100.0%である。	注3に示されているデータは当該出典には示されておらず理解し難い。)		
21	138	側注1	p. 139参照。	生徒にとって理解し難い表現である。 (8行「水源」への側注「water resource ; 利用する水の供給源をいう。」に続く表現として、「p. 139」のどこを参照するのか理解し難い。)	3-(3)	
22	149	図3-40	表面遮水壁形 内部遮水壁形 <9-10行, 12行> 表面遮水壁型 <10行, 図3-39, 16行> 内部遮水壁型	表記が不統一である。	3-(4)	
			<263ページ1列8行> 表面遮水壁形 <262ページ4列22行> 内部遮水壁形			
23	156	側注1	東日本大震災をきっかけに原発事故が発生し、	生徒にとって理解し難い表現である。 (「東日本大震災」と「原発事故」との関係について理解し難い。)	3-(3)	
24	172	9	れんが <図3-71> レンガ	表記が不統一である。	3-(4)	
25	172 - 173	16 - 2	日本の下水道処理人口普及率は、…、2020(令和2)年度末の普及率は79.7%である。また、…を含む汚水処理人口普及率は91.7%まで向上した①。 <173ページ側注1>	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (令和3年版「水循環白書」には、「2020(令和2)年度末」の「下水道処理人口普及率/汚水処理人口普及率」は「79.7%/91.7%」であると記載されている、と誤解する。)	3-(3)	
			令和3年版「水循環白書」による。			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-14		学校 高等学校		教科 工業	種目 社会基盤工学	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
26	179	9	図3-54の複断面河川における…	生徒にとって理解し難い表現である。 (「図3-54」は158ページ「高速凝集沈殿池(スラリ一循環形)」であり理解し難い。)	3-(3)	
27	180	13 - 15	併せて河幅や断面形との関係から河状, さらに用地確保の難易などを考慮して決める(図3-81)。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「河状」とは何か理解し難い。)	3-(3)	
28	183	図3-86	ミシシッピ川 ナイル川	不正確である。 (図に「「河川データブック2021」(国土交通省)による」と記載されているが, 当該出典での記述と異なっている。)	3-(1)	
29	185	表3-22	(全体)	不正確である。 (これらの他にも特定都市河川が存在する。巴川の施行日が不正確である。境川・猿渡川の流域面積が不正確である。)	3-(1)	
30	209	図4-3	<①図> (右上がり斜線ハッチの部分)	生徒が誤解するおそれのある図である。 (「大深度地下」に相当する部分について誤解する。)	3-(3)	
31	227	側注5	2011(平成23)年度からは「都市空間部門」, 「景観教育・普及啓発部門」として表彰している。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (現在においても「都市空間部門」, 「景観教育・普及啓発部門」として表彰していると誤解する。)	3-(3)	
32	234	4 - 10	4 廃棄物発電と廃棄物熱利用・廃棄物燃料製造 (全体) <表4-7> 燃料電池 水素と酸素の…を利用する	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「廃棄物発電」, 「廃棄物熱利用」, 「廃棄物燃料製造」, 「燃料電池」が再生可能エネルギーであると誤解する。)	3-(3)	
			。…で発電を行う。			
33	237	表4-10	雪害(五九豪雪) 1983 雪害(一八豪雪) 2005 雪害 2011 133名	不正確である。 (表下に「「令和2年版防災白書」(内閣府)による」と記載されているが, 当該出典での記述と異なっている。)	3-(1)	
34	240	7 - 9	表4-10(p.237)のように, 1983年, 2005年, 2011年において100名を超える犠牲者を出している。	生徒にとって理解し難い表現である。 (表4-10は表下に「「令和2年版防災白書」(内閣府)による」と記載されているが, 当該出典での記述と異なっており, 犠牲者数について理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-14		学校 高等学校		教科 工業	種目 社会基盤工学	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
35	240	15	東日本大震災による地震	不正確である。 (「地震」と「震災」との関係からみて、237ページ表4-9・側注3の記述とも異なっている。)	3-(1)	
36	248	図4-54	パルプ・紙・紙・加工品製造業	誤記である。	3-(2)	
37	248	図4-55	左図(平成7年度の円グラフ)	不正確である。 (図下に「令和2年版環境白書(環境省)による」と記載されているが、当該出典には左図は見当たらない。)	3-(1)	
38	251	図4-61	令和1(年度)	生徒にとって理解し難い表現, 図である。 (「(一般廃棄物処理事業実態調査(平成30年度)」(環境省)による)」と記載されているのに、なぜ令和1(年度)のデータが記載されているのか理解し難い。)	3-(3)	
39	253	図4-66	(全体)	生徒にとって理解し難い表現, 図である。 (図のX軸について理解し難い。注に「斜体文字は縮減(焼却, 脱水)を含む。」と記載されているが、図中に斜体文字は見当たらず理解し難い。建設混合廃棄物(排出量)のみはt表示になっており理解し難い。「82%」について何の値なのか理解し難い。)	3-(3)	
40	255	表	<年代> 538	生徒にとって理解し難い表現, 表である。 (「538」の行に他に記述がなく理解し難い。)	3-(3)	
41	257	表	<備考> 関東大震災 ▶p. 33, 176, 238	不正確である。 (「238」)	3-(1)	
42	260	表	<1991 備考> リサイクル法の制定 ▶p. 252	生徒にとって理解し難い表現, 表である。 (252ページには「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(2000年公布, 建設リサイクル法ともよばれる)」という記述しかなく理解し難い。)	3-(3)	
43	260	表	<2000 備考> 交通バリアフリー法の制定 ▶p. 18, 117, 見返し5, 6 <18ページ28行~19ページ1行> f バリアフリー化の推進 以上のように	生徒にとって理解し難い表現である。 (260ページ「交通バリアフリー法」, 18ページ・117ページ「バリアフリー法」, 117ページ・118ページ「改正バリアフリー法」, 見返し6「バリアフリー新法」の関係, 位置付けについて理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-14		学校 高等学校		教科 工業	種目 社会基盤工学	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			な環境を整備することは、…必要である。日本では、…をふまえ、「バリアフリー法」が制定された。具体的には、…などが進められ、共生社会の実現を目指している。			
			<117ページ18行～118ページ6行> 4 バリアフリー法 バリアフリー法②は、…をふまえ、…などの施設について、…する目的で定められたものである。			
			この法律は、…するものである。たとえば、…を義務づけている。また、…を示す。 今後も…がたいせつである。 わたしたち技術者は、…がたいせつ			
			である。 <117ページ側注2> 正式には、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」という。また、改正バリアフリー法では、			
			「…」、 「…」が明記された。 <118ページ側注2> 改正バリアフリー法に基づく…。 <見返し5, 6> (全体)			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-15		学校 高等学校		教科 工業	種目 地球環境化学	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1		口絵6	<牛乳パック再利用マーク> [牛乳パック再利用マーク普及推進協議会]	不正確である。 (推進)	3-(1)	
2	4	22 - 24	国連の環境分野について考える機関であるUNEP(国連開発計画)は、2015年には持続可能な社会の実現をめざしてSDGs(持続可能な開発目標)を設定した。	不正確である。 (国連の環境分野について考える機関であるUNEP(国連開発計画))	3-(1)	
3	20	側注1	10 μ m <27ページ 10行> 500 μ L/L	表記の基準によっていない。 (「 μ 」, SI)	3-(4)	
			<90ページ 側注2> 0.3 μ m <93ページ 側注5> 4.7 μ m			
			<93ページ 11行> 10 μ m <93ページ 側注6>			
			2.5 μ m <135ページ 1行> 0.01 μ m			
			<135ページ 2行> 100 μ m <144ページ 5行> 110 μ m			
			<144ページ 9行> 110 μ m <146ページ 2行>			
			10 μ m <219ページ 表13> μ (マイクロ)			
4	23	表2-3	<代替フロン オゾン層破壊効果> 小	生徒にとって理解し難い表現である。 (HFC類について側注2の「オゾン層破壊の原因とならない」に照らして理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-15		学校 高等学校		教科 工業	種目 地球環境化学	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
5	31	3	冷却用水	生徒にとって理解し難い表現である。 (33ページ1行及び2行の「冷却水」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
6	38	側注2	東日本大震災にともなう福島第一原子力発電所の事故	生徒にとって理解し難い表現である。 (東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故の関係について理解し難い。)	3-(3)	
7	39	側注2	(全体)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「植物は生育を阻害される」の事例と読め健康被害を生じた土呂久地区の汚染について誤解する。)	3-(3)	
8	41	図2-21	<上> 太陽エネルギーから光合成への無機物の流れの矢印	生徒にとって理解し難い図である。 (太陽エネルギーは無機物ではなく理解し難い。)	3-(3)	
9	46	17 - 18	(表2-9)	生徒にとって理解し難い表現である。 (16-17行の「アマゾンの熱帯林は、1988年からの30年間で約4200万haが消失し、地球環境全体への影響が危ぶまれている」との関係について理解し難い。)	3-(3)	
10	58	図3-6	排煙脱硝装置と排煙脱硫装置の位置	不正確である。	3-(1)	
11	60	側注2	約1365 J/m ² ・s <69ページ 17行> 1.37×10 ³ J/m ² ・s	表記の基準によっていない。 (「J/m ² ・s」, SI)	3-(4)	
12	63	図3-17	<左> 都市ごみ <右> ごみ固形燃料	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (産業廃棄物の場合と同様に生物を起源とするもののみがバイオマスであり全ての都市ごみやごみ固形燃料がバイオマスであるように誤解する。)	3-(3)	
13	66	19 <側注3> (全体)	コンバインドサイクル発電③	不正確である。 (コージェネレーションシステムの例として不正確。)	3-(1)	
14	67	12 - 14	電力消費量は、季節や昼夜で大きな差があるため、需要と供給のバランスをとることができない。	生徒にとって理解し難い表現である。 (通常は需要と供給のバランスをとっており電力消費量の季節や昼夜の大きな差と需要と供給のバランスの関係について理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-15		学校 高等学校		教科 工業	種目 地球環境化学	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
15	82	16 - 17	そこでは、12項目の大気汚染物質が測定されている。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全ての一般局や自排局で12項目が測定されているように誤解する。)	3-(3)	
16	98	図4-34	連絡管の部分	生徒にとって理解し難い図である。 (連絡管が途切れているように見え理解し難い。)	3-(3)	
17	105	表4-6	大腸菌群数	不正確である。	3-(1)	
18	106	表4-7	大腸菌群数 <114ページ 12-16行> 8 大腸菌群数 大腸菌群は、人や家畜などの … 河	生徒にとって理解し難い表現である。 (環境基準項目に照らして理解し難い。)	3-(3)	
			川・湖沼・海域の水質は液体培地による方法(最確数(MPN)による方法) <114ページ 18-26行> 【液体培地による方法】			
			BGLB液体培地を … 菌数を求める(表4-9)。 <114ページ 図4-49> (全体)			
			<115ページ 表4-9> (全体)			
19	133	30	セタン価の低いもの	生徒にとって理解し難い表現である。 (すす発生の抑制について理解し難い。)	3-(3)	
20	137	図2	<中央> (NO)と(CO2)	生徒にとって理解し難い図である。 (NOとCO2の由来について理解し難い。)	3-(3)	
21	154	図5-29	アミノ酸糖類	生徒にとって理解し難い表現である。 (一種類の物質のように見え理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-15		学校 高等学校		教科 工業	種目 地球環境化学	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
22	155	5	有機物 (BOD)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (有機物をBODというように誤解する。)	3-(3)	
23	186	12 - 13	東日本大震災にともない、福島第一原子力発電所において未曾有の事故が発生した。 <190ページ 表7-1 2011年 国内>	生徒にとって理解し難い表現である。 (187ページの12行の「東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故」に照らして東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故の関係について理解し難い。)	3-(3)	
			東日本大震災と福島第一原子力発電所事故			
24	193	3 - 5	循環型社会形成推進基本法が制定された。また、リサイクルに関連した6法も制定・改定され、2000年は循環型社会元年となった (図7-3)。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (リサイクルに関連した6法が図7-3の個別物品の特性に応じた規制の6法のように誤解する。)	3-(3)	
25	194	7	<7行の下> Program <196ページ 3行の下> Program	不正確である。	3-(1)	
26	216	表6	<上段 溶存酸素量 (D0) > 7.5mg/L以下 5mg/L以下 2mg/L以下	不正確である。 (以下)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-11		学校 高等学校		教科 工業	種目 コンピュータシステム技術	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	4	14 右	章末問題……………60	不正確である。 (60)	3-(1)	
2	16	側注1	data base (以下 側注3 database management system)	表記が不統一である。	3-(4)	
3	30	22	$\Delta t \leq T/2$ (以下 31ページ1-2行 最高周波数の2倍であればよい。 31ページ3行 $f_s \geq 2 f_p$	不正確である。 (不等式)	3-(1)	
			35ページ9-10行 (最高周波数の2倍であればよい。)			
4	31	6 - 7	1秒間に標本化を行う回数をサンプリングレートという。 (以下 30ページ23行 …を標本化周波数といい、…)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (サンプリングレートと標本化周波数の関係について誤解する。)	3-(3)	
5	34	21	サンプリング速度 (以下 35ページ1-2行, 12行 サンプリング速度 31ページ7行 サンプリングレート)	表記が不統一である。	3-(4)	
6	46	14	工業標準調査会	誤記である。	3-(2)	
7	46	24	米国電気電子技術者協会(IEEE) (以下 側注5 institute of electrical and electronics engineers 85ページ側注2	表記が不統一である。	3-(4)	
			米国電気電子学会 142ページ側注2 the institute of electrical and electronics engineers (米国電気電子学会)			
8	54	図2- 40	Excel JUST PDF	特定の商品の宣伝になるおそれがある。	2-(7)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-11		学校 高等学校		教科 工業	種目 コンピュータシステム技術	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
9	57	図2-43	Web用プログラム content="Microsoft Word ..."	特定の商品の宣伝になるおそれがある。	2-(7)	
10	68	側注1	変調波(modulated wave) (以下 本文6行, 側注3 被変調波③ ③modulated wave)	誤りである。 (異なる語に同じ英訳)	3-(1)	
11	73	図3-21	左から2つめのビット列 フラグ 0111110	不正確である。 (ビット数が足りない。)	3-(1)	
12	73	側注7	basic mode data transmission control procedure	誤記である。	3-(2)	
13	81	図3-29	IPアドレス 192.168.10.100 サブネットマスク 255.255.255.0 ホストアドレス 0.0.0.100 ... 11000000 10101000 00001010	相互に矛盾している。	3-(1)	
			01100100 AND 00000000 00000000 00000000 11111111 (反転) 00000000 00000000 00000000 01100100			
14	82	6-7	プライベートIPアドレス②とよばれる 。…同じ部屋番号③ (以下 側注2 住所の異なるマンションであれば、同 じ部屋番号…	不正確である。 (二つの対応)	3-(1)	
			側注3 private ip address ...)			
15	100	図3-58	www.kantei.go.jpのIPアドレスは? 202.214.194.138 (4か所)	不正確である。 (202.214.194.138)	3-(1)	
16	119	1-3	ループバックアドレスにpingコマンド を実行する。通信可能な状況であるこ とから、サーバ2自身のNICは動作して いることが把握できる。	誤りである。 (ループバックアドレスにpingしても、サーバ2自身 のNICの動作は把握できない。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-11		学校 高等学校		教科 工業	種目 コンピュータシステム技術	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
17	122	5 - 6	図3-99では、メモリに100%近い負荷が継続して発生しているようすが読み取れる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (100%の負荷は読み取れない。)	3-(3)	
18	126	13	暗号強度③ (以下 側注3 暗号の解読のしやすさを表している。)	不正確である。 (しやすさ)	3-(1)	
19	127	図3-113	n人で通信する場合に必要な共通鍵の数は次式で求められる。	誤りである。 (共通鍵)	3-(1)	
20	130	9	図3-115示す	脱字である。	3-(2)	
21	132	側注4	government PKI	誤記である。	3-(2)	
22	135	側注1	secure socket layer	不正確である。 (socket)	3-(1)	
23	144	9	ウイルス対策7箇条	生徒にとって理解し難い表現である。 (該当するWebページはすでに存在しない。)	3-(3)	
24	145	23	データ転送速度を求めよ。 (以下 250ページ上 第3章 3. (1) 6.25×10^6 文字/s)	生徒にとって理解し難い表現である。 (単位を指定しない場合、通常はSI単位となる。)	3-(3)	
25	145	30	www. abc. co. jp	特定の営利企業の宣伝になるおそれがある。	2-(7)	
26	172	図4-29	51 …, 土木工事	誤記である。	3-(2)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-11		学校 高等学校		教科 工業	種目 コンピュータシステム技術	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
27	175	22 - 23	文字列型 CHAR(n) は、nバイトまでの文字列が格納できる。 (以下 17行 科目名 CHAR(14) 170ページ図4-26	不正確である。 (14バイトでは漢字6文字は入らない。)	3-(1)	
			科目名 工業情報数理)			
28	186	8	pyodbc. connect(conn_str)	脱字である。	3-(2)	
29	188	側注1	social network system (以下 103ページ側注2, 113ページ側注2 social networking service)	表記が不統一である。	3-(4)	
30	188	側注6	velocity..., volume..., variety...とあわせてビッグデータの特性を表す「3つのV」の一つ。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「3つのV」の一つは何なのか。)	3-(3)	
31	203	1	[1] DFDの基本形 (以下 202ページ17行 [1] DFDの図記号)	誤記である。	3-(2)	
32	206	下囲み	⑥ファイル概要設計 ER図 (以下 166ページ9行 E-R図)	表記が不統一である。	3-(4)	
33	219	13 - 14	索引編成ファイル (以下 151ページ8行 索引順編成ファイル)	表記が不統一である。	3-(4)	
34	248	下囲み	データフローダイアグラムの丸付き数字 (以下 203ページ図5-14)	相互に矛盾している。 (203ページでは中央の「処理」に対し、入る矢印2つと出る矢印2つ、ともにラベルが異なる。)	3-(1)	
35	250	6	第2章 問1～問4 234kB 300kB 5.76MB 3.24MB (以下 34ページ10行ほか 何kバイトになるか。)	表記が不統一である。	3-(4)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

